

# 恵みと真理のニュース



2013年3月の一次 恵みと真理教会

韓国 京畿道 安養市 萬安区 安養5洞 458-5 / ☎82-31-443-3731 / www.gntc.net



## 【証】 私をお救い頂き、お祈りに答えられ、福音伝播に楽しませて頂いて感謝致します。

私は家でたびたび祖先の祭祀を行う様子を見て育ちました。学校を卒業して職に就いていた際に結婚をしましたが、夫の実家は仏教を信じる家庭だった上に、夫が長男の長男なので夫の実家でも1年に祭祀を8回も行わなければなりません。初子を出産してからはよく具合が悪くなって、慢性扁桃腺炎にうつ病と対人恐怖症まで来しました。歩きまわる総合病院ともいえるほど体が痛んで、身も心もボロボロになって足しげく病院に通っていました。

継続病院に通って扁桃腺炎はある程度直りましたが、日増しに体力が弱くなってうつ病と対人恐怖症はひどくなりました。誰かに山登りでもしてみたらと言われてある山登り会に入って毎休日あちらこちら有名な山をがりがりと探し回りました。

その当時、故郷の同門たちが運営するネット同門会から故郷の先輩の恩恵と真理教会の長老お一方を知りました。その方がネット同門会の掲示板に載せてくれる福音にまつわる話をたまたま読んだり、教会に出てみたらという勧告も受けました。

しかし、教会は私とは関係ないと思ってよく聞き流してしまったものです。調理師で働く夫はいろんなところを巡りながら生活して家に帰ってくるのがごく少なかったです。淋しくて不安でうつ病がひどくなると、あまりにもつらく

て漠然と神様を考えてみましたが、依然として私は‘宗教というのは全てが似たり寄ったりで、あれば良いもので、無くても別に問題ない’と思っていました。長老さんは諦めないでいつも私に福音を伝えてくれました。早く退勤する時が多かったですが、内気な性格のため、仲間とはよく付き合えなくて家に帰って独りで時間をつぶすことが多かったです。こんなに5年もの時間が経ちました。長老さんが送ってくださった信仰書物何冊が本棚にさし込まれているまま、その間放置されていました。ところが、今年2月初旬のある日、本棚のある牧師先生の干証書籍の表題が目に入りました。一度読んでおきたいと思って本を取って2、3枚を読んでから閉じてしまいました。頭からドラマまたは小説に出てくるような話に思われたからです。心に“天国、地獄ってあるものか、人たちを教会に出させるために作り上げた話だ。”と言いました。それから何日が過ぎた後、もう一度本を開きました。初めとは違って字がよく目に入って読んでいるうち、不思議なことに体がふるえてきました。まったく地獄が存在するとしたら、どんなことがあっても地獄だけは行くまいという思いがしました。長老さんにお電話したら長老さんは長い間イエス様を信じなければならぬ理由と信仰生活について詳細に仰ってくださいました。そして私が住むジャンユにも恩恵と真理教会があるのでその聖殿に絶対出てみて

くださいとって大教区長牧師と首区域長をご紹介くださいました。すぐ牧師先生よりご連絡が来しました。それから2月5日、ジャンユ聖殿に出て主日礼拝に出席するようになりました。その日、党会長牧師の説教を聞き取って素晴らしい経験をしました。それほど信じられなかった福音が、聖書のお言葉が即座に信じられてきたのです。説教を聞き取っている間ずっと涙が溢れました。泣くまいと頑張ってもはじまりませんでした。ちょうど聖餐礼拝だったので聖餐の間は手に負えないほど悔い改めと喜びの涙を流しました。一緒に歌った賛美歌144番‘イエス様私のために’の歌詞の一節一節が私のために書いてあるように感じられました。神様の生きていらっしゃることに、私をお救い下されるためにイエス様が十字架につけられて贖いの血を流されたことが疑心なしに信じるようになりました。初めて捧げました礼拝だったのに牧師先生の説教と神様のお癒しと祝福のためにお祈りをして頂く時、“ハレルヤ”、“アメン”という声が軽々と口から出ました。まるで主イエス様がその日私が主の前に出ることを知ってお待ちになっていた、“来たの？よく来てくれた。お帰り。”と嬉しく迎えて下さるようでした。

&lt;次号に続く&gt;



## 【信仰コラム】 霊魂と健康状態を診断しろ

“また声が聞こえてきた。「神が清めた物を、清くないなどと、あなたは言うてはならない。」”（使10：9～16）

定期的な健康診断は健康と長生きのために勧めるべきことです。ところが、それよりもっと大切なことは霊魂を診断してよく観ることです。人は肉身的な存在でありながら、また霊的な存在でもあります。肉身の生命は限りがありますが、霊魂は肉身が死んだ後でも存在します。更には、その霊魂が地獄に行くとならばこの世での人生そのものは呪われたものになってしまうのです。そして、神様を喜んで差し上げて主から賞賛を頂くために信仰状態を見て診断することはとても大事なことです。

第一に、霊魂を診断する方法を調べてみます。誰でもイエスキリストを信じれば生まれ変わって新しい被造物になります。このような変化は五官で感じられません。霊魂に起きる変化だからです。次の質問に見せかけなく答える人については生まれ変わった人か否かを見分けることが可能です。

<あなたは神様に対して罪人である事を認めますか？>

<自分の努力と行為では罪の問題を解決できないという事を認めますか？>

天地万物を創造された神様は私たちを救われるために独生の子イエスキリストをこの世に送ら

れた事実を信じますか？

イエスは童貞女の体に聖霊で宿られて人間の体で生まれられた事を信じますか？

イエスは私たちの罪に代わって十字架につけられて死なれて墓から復活された事を信じますか？

イエスキリストのみ救世主でいらっしゃる事を信じますか？

このような事実を信じるあなたは罪の赦しを受けて聖霊で生まれ変わった事を信じますか？

イエスの再臨と聖徒を復活を信じますか？

聖徒は天国で主と一緒に永遠に

生きる事を信じますか？

イエスキリストを信じて愛して敬拝することよりもっと貴重なことはありませんか？>こういった事実に対してこころから“アメン、私は信じます。はい、そうです。”と答える人は生まれ変わった人、救援を受けた人です。

第二に、信仰状態を診断する方法を調べてみます。信仰状態は聖書に記録された神様のお言葉についての反応として診断できます。神様が指示されるお言葉についての拒否、または拒絶反応は信仰状態が不良であることを表すのです。反面、おとなしく従う反応は信仰状態が良好であることを表すのです。ペテロはイエスキリストの死と復活と昇天を目撃した人たちの一人でした。五旬節の日、聖霊充滿を受けて大胆で熱情的に福音を伝えて、大きな権能が伴いました。こうしたペテロには尚も頑固な性癖が残っていました。本文に記録された事件でみると彼には主のお話を逆らう自己主張と偏見と意地があ

ったことが分かります。彼は異邦人に対する偏見も持っていました。主には幻影を通じて彼の性癖と偏見を捨てるよう要求されました。私たちがこのように誤っているのではないかと自分を省みるべきです。福音に背馳するとか関係ないことを取って“主よ、そうはできません。”とって我を張っているのではないかと、省みなくてはなりません。ペテロは主の責めで自分の態度が誤っていることを明らかに知りました。今、主の指示とおりに異邦人のコルネリウスの家に行き、その家に集まった人々に福音を伝えたらお言葉を聞いた全ての人に聖霊が臨みました。

皆さんの霊魂を診断してみてください。イエスキリストを信じる信仰を何よりも貴重に思う方は霊魂がよくできている人です。皆さんの信仰状態を診断してください。

神様のお言葉を逆らう自分の主張と偏見、意地がありますか？

それが頑固な性格、または癖であり、伝統か慣習であり、神学か教理であり、娯楽または趣味であり得ます。信仰生活を妨げるこういったことを投げ捨てるという主のお話に“主よ、そうします。”と反応してください。皆様は霊魂が生まれ変わった福を受けた者になって健康な信仰状態を維持する聖徒になるようお願いいたします。

「チョヨンモク牧師先生の信仰コラム‘緑の牧場、清い川’本の語り中」

## 真実に信じる者になりなさい



恵みと真理教会 チョヨンモク 牧師

弟子たちがイエルサレムのある家に集まりました。イエスが復活した日の夕方でした。彼らはイエスを十字架に釘を打って殺されたユダヤ人たちを恐れて門を閉めていました。その時イエスが忽然といらっしやって中に立って“あなたたちに平安があるべきよ。”としました。彼らが驚いて恐ろしさに捕らわれて霊を見ている並びだと思いました。イエスが彼らにおっしゃいました。“どんな理由で驚いて、どんな理由であなたの心に疑心が起きるのか？私の手と足を見て 私であったことが分かりなさい 私を触って見なさい 霊は肉と骨がないが私は見たように持っている。”このようにおっしゃって彼らに手と足を見せてくれたが、彼らが喜びながらもまだ信じることができずに奇妙に思っていました。

イエスが彼らにおっしゃるのを“あなたたちがここに何でも食べ物を持っているのか？”しました。彼らが焼いた魚一つをあげてイエスが受けて彼らの前で召し上がりました。弟子たちは初めて彼らの中にいらっしやる方がまた生き返ったイエス様であるとは信じるようになりました。イエスがまた彼らにおっしゃるのを“あなたたちに平安があるべきだ。父が私を送ったことのように私もあなたたちを送る。”なさって私どもに向けて息を吐き出しながらおっしゃるのを“聖霊を受けなさい。あなたたちが誰の罪でも許せば彼らが許すことを受けることです。誰の罪でもそのまま置けばそのままあろう”(ヨハネ 20:23)しました。イエスはいらっしやった時と同じく忽然と立ち去りました。こんな事を経験するようになった弟子たちは喜びが一杯になりました。ところで12人の弟子の中にひとりであるトマスはその席にいらなかったです。

他の弟子たちがトマスに“私たちが主を見た。”彼らが体験した事を言いました。するとトマスが言うのを“私が 主の手にあるくぎあとを見て、私の指をくぎあとに入れて見て、私の手を主のわき腹に入れて見なくては信じない。”しました。“見なくては信じない。”と翻訳された原語は非常に強い感じを与えるこの二重の不正になっています。こんな 二重の不正は強い不正を現わす時に使われます。

今日の本文にはこのようなトマスが復活したイエス様を直接お会いできることでよった態度の変化とイエス様を向けてどんな信仰を告白したのかを見せてくれています。そしてにせで信じる者にならずに真実に信じる者になりなさいというメッセージがその中にあります。“信仰ない者にならずに信じる者になりなさい。”とイエス様がおっしゃいました。うわのそらで信じることはむなしい信仰です。信仰ないことに違いありません。

こんな人は救いを得ることができません。まことらしく信じなければなりません。真実に信じなければなりません。今日はこのような教えに関してよく見ます。

弟子たちは 前週間に集まったその家にまた集まりました。安息日が去る初日イエスが復活してこの日に復活したイエスが弟子たちが集まった所に現われました。それから教会はイエスが復活した日の安息日の翌日に集まりました。この日を主の日だと呼びました。今度はトマスも一緒にありました。イエスが忽然と彼らの中いらっしやいました。彼らの中立っておっしゃるのを“あなたたちにやすかれ。”しました。それからイエスの目がトマスに向かいました。イエスがトマスに“あなたの指をこちらにさし入れて見てあなたの手をのばして 私のわきにさし入れて見なさいそんなにして信仰ない者にならずに信じる者になりなさい。”しました。トマスは“私の主で私の神様です。”と言いました。その手のくぎあとを見ながら自分の指をそのくぎあとに入れながら自分の手をそのわきに入れて見ようと試みなかったです。復活したイエス様を直接お会いできたらそんな必要がなくなったのです。

トマスが他の弟子たちに“私がイエスの手にあるくぎあとを見て、私の指をくぎあとにさし入れて見て、私の手をイエスのわきに入れて見なくては信じない。”と言ったことはむしろ復活した神様にお会いしようとする切実な望みの表現だと見るのが適切です。イエス様にお会いして触って見ることでイエス様の復活を確信するようになるのを願いました。イエス様はトマスが確信を持つようにするために心配りました。トマスが願う確認を通じて疑心を解消させることができる機会を提供しました。トマスは自分の前にいらっしやるイエス様をお目にかかって自分におっしゃるみ言葉を聞きました。すべての疑心があつという間に消えました。彼の心霊は瞬間 敬い畏れる心でいっぱいになりました。トマスはイエス様を向けて“私の主で私の神様です。”と言いました。トマスは彼の疑心がすべて消えたからイエスの手とわきを触って見る必要がなくなったのです。トマスはもうイエス様を自分の 主そして自分の神様として確信して迎接するようになりました。トマスはイエス様を向けて“私の主です。”と告白しましたイエス様を“私の主”と呼ぶ人は実際にイエス様を神様で仕えなければなりません。自己中心の生活からイエス様中心の生活で切り替えなければなりません。すべての事に神様の光栄を先に思わなければなりません。どのようにするのが神様をうれしくすることになるかと思わなければなりません。そうするためには“誰でも私を付いて来ようとするなら自分を否認して自分の十字架を負って私を従いなさい”(マタイ 16:24)なされた神様のみ言葉を肝に銘じて実践しなければなりません。自己中心の主張と我執と欲心をきっぱりと処理しなければなりません。十字架に釘を打つようにしなければなりません。私にすぐは損害になって苦痛になると言ってもそれによって神様の光栄が現われるようになって神様をうれしくすることだけできたら喜んでその道を選ばなければなりません。私の意が神様のみ旨に一致しなければ私の意が拒否されるのを願わなければなりません。

最善をつくして結果は全能な手助けに攝理なさる神様に任せなければなりません。

またある人々がトマスのように自分が直接神様をお目にかかること願います。“神様を見せてくれれば信じます。”と言います。あるいは神様が私が望む奇蹟を見せてくれればもっと屈強な信仰を持つようになると言います。そんなことができるというのを否定する理由はないです。しかし必ずそうではないです。

昔のエジプトから解放されてガナアンに行ったイスラエル民たち位多くの奇蹟を体験した人々はいないと言っても度が外れたものではないだろう。そうだがその中に神様を信じて神様の口約束を信じてガナアンに入った人はエジプトから出る時 20 歳以上になった人の中にヨシュアとガルレブ二人だけ入って行きました。一方ジェリコ城の 芸者ラハブはイスラエル民が経験したそういう奇蹟を見られなかったし聞いてばかりしたのに神様を信じたし神様の口約束を固く信じた。芸者ラハブはイスラエル忍者たちを隠してくれて ジェリコ捜索隊につかまらないように助けました。そんな後に二人の忍者に要求するのを彼らがジェリコ城を占領する時自分と家族たちの命を救ってくださると言っていました(数 2:9~13)。芸者ラハブの信仰は驚くべきな信仰です。イスラエル子孫たちは神様がモセを通じてエジプトに下る災いたちを見ました。広野の道で毎日昼と夜に雲の柱と火の柱の引導を受けたし、奇蹟の餅であるマンナを食べました。神様が彼らに現わす幾多の奇蹟をこのように直接体験したが彼らは神様が彼らをガナアンで導いてくださることを信じることができなかつたし不服しました。

ですから神様が行う奇蹟を直接体験するようになれば誰でも真実の信仰を持つことができるようになるということは事実ではないです。芸者ラハブは神様の権能と真実さを直接体験したことがないにもかかわらず危険を冒して命をかけて信じた。うわさを聞いて信じた。“あなたは私を見たため信じるのか見られずに信じる者等は恵まれる。”とおっしゃったイエス様のみ言葉どおり芸者ラハブは見られずに信じるさあ、うわのそらではなくて真実に信じるさあ、行うことがある信仰を持った者として大きい福を受けました。彼はタビデ王の高祖お婆さんになりました。

聖書に記録されたみ言葉によってイエス様を信じる人々が幸いである人々です。聖書を読んで聖霊様の導きを受けてイエス様を信じる人はイエス様を直接見なくて信じて楽しめます。使徒ペテロは記録するのを“イエス様をあなたたちが見られなかったが愛するのだ今も見られないが信じて言えない栄え栄えしい楽しいことで喜んで信仰の結局はすなわち魂の救われるのである”(ペテロ 1 1:8,9)しました。

聖書のみ言葉に根拠して信じる人が真実に信じる人です。

聖徒の皆さんは“私は見られなくても聖書に記録されているからイエス様が私の主で私の神様であることを信じます。”聖書に記録されているから天国と地獄があることを信じてイエスキリストを信じるすべての者が天国に入るようになることを信じます私は聖書に記録された口約束を皆信じますと言う聖徒になるように願います。